



特集

市役所でも感染症対策を徹底。窓口では飛沫防止の仕切り越しに対応します。

コロナ下で さまざまな 声 を聞く

問合せ 政策広報課 (☎372-3311・内線3412)

道内の感染者確認から1年

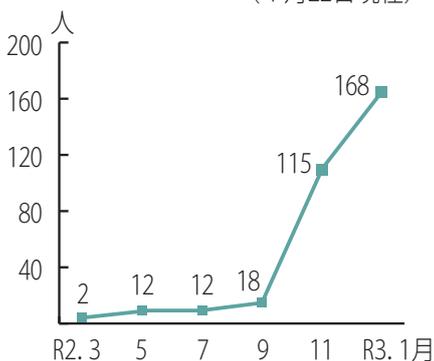
世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症。令和2年2月14日に道内初の感染者が公表されてから、約1年が経過しました。現在も医療・経済・教育など、あらゆる分野へ影響を与えています。

市内の状況も一変

市内では令和2年3月6日に1人目の感染者が公表され、令和3年1月22日現在で168人となりました。会社ではテレワークなどを取り入れて3密を回避。学校ではさまざまな行事が延期や中止に。スーパーマーケットなどでレジの列に並ぶ時は距離を取るなど、生活が一変しました。ここでは、コロナ下で感染症対策と普段の取り組みとの両立に尽力する皆さんの声を聞きました。

市内の感染者数の累計

(1月22日現在)



医療機関

とにかく人との接触を避けて

コ ロナ下で闘う医療従事者の皆さん。通常医療と両立させるため、さまざまな工夫で感染症対策に取り組んでいます。

感染症対策のため 新たな取り組みを開始

「定期的に通院している方に向けてオンライン診療を開始しました」と話すのは、北広島中央クリニック院長で北広島医師会会員の今井良成さん。以前からオンライン診療の導入を検討していましたが、感染症拡大を機に運用を開始したといいます。感染が疑われる方と一般の患者の接触を避けるため、院内に専用の部屋を増設するなど設備面での感染症対策も強化したそうです。

PCR検査センターの利用状況

「市から北広島医師会にPCR検査センターについて話があったのは、第1波が発生した3月〜4月のことです。その後、感染者数は減少しましたが、再拡大を想定して準備を開

始し、9月に設置となりました」と今井さん。当初は1日最大10人を検査可能としていましたが、現在は検査対象者の増加に対応している状況です。「新型コロナウイルス感染症は無症状の方から感染することも多いといわれています。今はとにかく人との接触を避けるようお願いします」



感染の疑いがある方は専用口から入り、専用の部屋で診察する

北広島中央クリニック

院長 今井良成さん



保育園

保護者や子どもたちの協力に感謝

市 立保育園は市内に3園あり、0〜5歳の子を受け入れています。子どもたちが安心して登園できるよう、各園で足並みをそろえて感染症対策を徹底しています。

年齢や場面に合わせて対策

「手洗いうがいの徹底や登園前の検温、3歳以上の子はマスクを着用するなど、協力をお願いします」と話すのは、すみれ保育園園長の橋本なつみさん。2歳以下の子はマスクの着用ができないため、抱っこなどの際には特に気を付けているそうです。

行事は来園者数を制限し、保護者の皆さんの協力で実施。子どもたちも日頃から対策に協力してくれ、「くしゃみの時は口を押さえるんだよ」と友達に呼び掛けるなど、積極的に取り組んでいるといいます。

「各園でも消毒の徹底など感染症拡大防止に努めています。引き続き保護者の皆様のご理解とご協力をお願いします」

親も息抜きを

子育て中は、親同士で交流することも大切だそう。「就学前の子と親が対象のすくすく広場は、園の利用者以外も参加できる子育て支援イベントです。親にとってもリフレッシュの場になりますので、感染症対策の上、ぜひ参加してください」



昼食時は手作りの仕切りで飛沫を防止

すみれ保育園

園長 橋本なつみさん



食料品店

市民のニーズに対応していきたい

私

たちの食生活を支える食料品店。日常生活になくてはならない存在であることから、感染症対策を実施しながら通常の営業を維持しています。

客層にも変化が

「感染症拡大前と比べ、来店のお客様は減少しました。それぞれが外出を控えている結果だと思います」と話すのはショッピングつむら店長の津村健さん。感染症拡大以降、自宅で過ごす時間が増えたことから地元野菜や特製ジנגスカンなどが特に売れるようになりました。

来店者が減少する一方で、札幌に住む方が来店する割合は増えたそう。「北広島のような郊外の方が、札幌に比べ密になりにくいと考える人が多いからではないでしょうか」

個別宅配の対象地域を拡大

これまで市内の一部地域で個別宅配に対応していましたが、コロナ下により利用者が増加。感染症対策

のため外出を控えたいという相談を受け、対象地域を拡大しました。

「市には、従業員が感染した場合の風評被害対策などもお願ひしたいです。感染者数は増減を繰り返していますが一喜一憂せず、地元のおいしい物をたくさん食べて乗り切りましょう」



レジ前の手作り飛沫防止シートは、改良を重ね現在2代目

ショッピングつむら

店長 津村健さん



介護付有料老人ホーム

安心して暮らせる施設づくりを

介

護スタッフが24時間常駐し、掃除や洗濯、介助サービスなどを提供する介護付有料老人ホーム。重症化しやすいといわれる高齢者が暮らす中で、職員の皆さんは感染症対策に取り組んでいます。

緊張と不安の日々

「施設・手指の消毒やマスクの着用、職員や入居者の皆さんの検温などを行ない、体調の変化を見逃さないよう努めています」と話すのは介護付有料老人ホーム悠々の施設長・長坂公宣さん。感染症対策の研修を何度も行い知識を深めています。高齢者施設などでのクラスターに関するニュースを聞くと、緊張感が高まり不安が尽きないといいます。

制限の中で精一杯の対応を

コロナ下では入居者の家族を含め施設の入入りを制限。「外出行事などのイベントを中止せざるを得ないこともありますが『今の状況では仕方ないね』と温かい声をいただき感謝

しています。面会はオンラインで対応していますが、遠方の家族やペットに会える点などが好評です」

入居者の皆さんが安心して施設生活を送れることが一番、と長坂さん。「家族の皆さんに安心して任せてもらえるよう、引き続き感染症対策を徹底していきたいです」



大画面のテレビを利用したオンライン面会の様子

介護付有料老人ホーム悠々

施設長 長坂公宣さん



学校

感染症対策と教育活動の両立を

令

和2年3月2日から、全国の学校が一齐に休校となりました。登校再開後も行事が中止や延期になるなど、これまでの学校生活から一変しました。

初めての全国一斉休校

「休校になると聞いた時は、受験があるのに大丈夫かなと不安でした」と当時を振り返るのは、緑陽中学校3年の山田詩織さん。休校中は勉強のほか、YouTubeを見たり音楽を聴いたりして自宅で過ごしました。休校が明けたのは5月7日。「久しぶりに友達に会えてとてもうれしかったです」

学校行事にも変化が

「覚悟はしていましたが学校祭などの行事内容が変更になり、がっかりしました。修学旅行は行き先が京都から道内に変更となりましたが、とても楽しく充実したものになりました」と山田さん。引き続きマスクの着用や手洗い・うがいの徹底、早

寝早起きなど、高校受験に向けて体調管理に気を付けたいと話してくれました。

学校での取り組みについて

文部科学省のマニュアルに基づき感染症対策を徹底している緑陽中学校。「登校時の健康状態把握や校内の換気・消毒などを継続して行っています」と教頭の折田道啓さんが話してくれました。「生徒の健康・安全面に最大限配慮し、教育活動を進めています。地域や家庭、学校が一体となつて対策をすることが大切だと思います。互いに思いやりの心を持ち、この状況を乗り越えましょう」



緑陽中学校

教頭 折田道啓さん
3年 山田詩織さん

市からのお願い

まずは電話で相談を

せきや発熱、倦怠感など新型コロナウイルス感染症が疑われる症状がある方は、医療機関での感染拡大を防ぐため、かかりつけ医や身近な医療機関に連絡し、診療が可能か確認してください。

かかりつけ医などがいない方や相談先が分からない方は、次の相談窓口へ連絡してください。

相談窓口

- 北海道新型コロナウイルス感染症健康相談センター (☎0800-222-0018・通話料無料) 24時間対応

- 耳の不自由な方など向け専用ファクス (FAX206-0732)

*相談様式に記入し送信してください。相談様式は道のホームページからダウンロードできます。

5つの場面に注意して

年度末は人が集まる機会が多くなります。感染症対策を徹底しましょう。対策を取っていない場合は参加を控えてください。人が集まる場合は少人数で静かに会話し、短時間で終わらせましょう。

感染リスクが高まる5つの場面

- 飲酒を伴う懇親会など
- 大人数や長時間におよぶ飲食
- マスクなしでの会話
- 狭い空間での共同生活
- 居場所の切り替わり

引き続き、気を引き締めて対策を

道内初の感染者確認から約1年がたちますが、いまだに終息の見通しが立っていないのが現状です。

現在、さまざまな分野の方が感染症対策に全力で取り組んでいます。引き続き、気を引き締めて感染症対策に取り組みましょう。

感染症に関する市の取り組みは、広報紙や市ホームページでお知らせしています。